

直近の家庭用牛乳乳製品の販売状況の推移を毎週発信してまいります。

**お知らせ: 次回発信日は5月12日月報(予定)**

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

## 《～家庭内消費は低調～大型連休を前にさらなる需要拡大を～》

・4/18週の牛乳類の家庭内消費については、販売個数前週差で全カテゴリ総じて減少、特に牛乳が大きく減少した。牛乳の販売個数をコロナ禍前の2019年度と比較しても99.3%となっており、低調な水準となっている。ヨーグルト類について、ドリンクタイプは前週よりも前年比の減少幅が大きくなったが販売個数は微増、個食、大容量は前年比、販売個数ともに減少した。消費地である関東圏等では平年よりも気温の上昇があったものの、天候不順による降水量の増加等の影響が消費低調の要因の一つと考えられる。

・政府が原油高・物価高に対して総合緊急対策を決定したことで今後の経済活動活性化が期待されるが、円安、ウクライナ侵攻等の取り巻く環境は依然不透明な状況が続いており、牛乳乳製品の消費動向には注視する必要がある。

・処理不可能乳の発生が懸念されているGWが目前となっているが、コロナ禍以降、制限措置が実施されていないGWは初めてであることを踏まえると、業務用需要の堅調な推移が期待され、また家庭用についても業界全体で需要拡大の取り組みを更に強化することが肝要であり、業務用需要、家庭用需要、双方の需要の底上げを図ることが、引き続きポイントとなると考えられる。

### 【牛乳類の販売速報(推定値): インテージSRI+】

(1) 直近動向(表①参照)

・直近(4/18週)の販売個数(前年同期比)は、牛乳: 同92.7%、成分調整牛乳: 同95.1%、加工乳: 同93.5%、乳飲料: 同92.1%。

**牛乳類トータルでは同92.8%**

※参考: 2020年度比は、牛乳: 80.5%、成分調整牛乳: 80.0%、加工乳: 83.3%、乳飲料: 76.0%(牛乳類トータル: 79.8%)

※参考: 2019年度比(コロナ禍前)の牛乳販売個数は99.3%。

・販売単価は、牛乳: 189.9円、成分調整牛乳: 173.4円、加工乳: 191.1円、乳飲料: 149.7円。

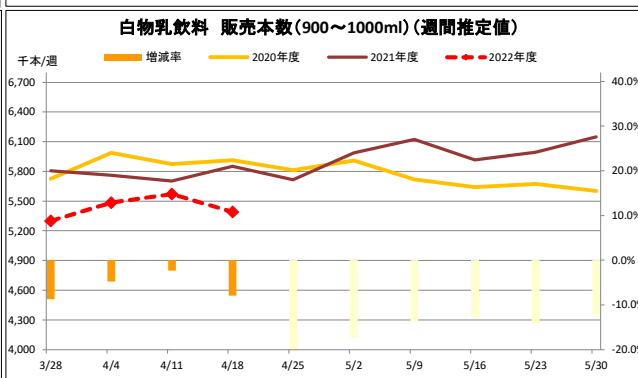
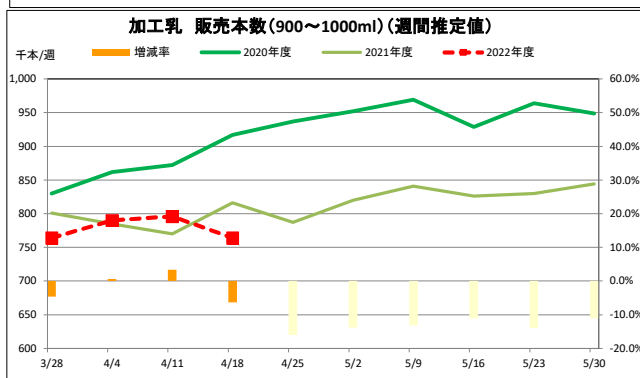
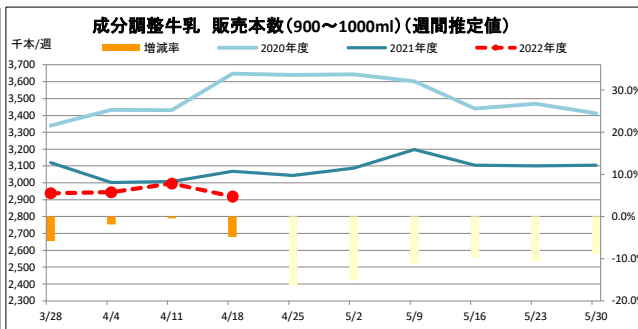
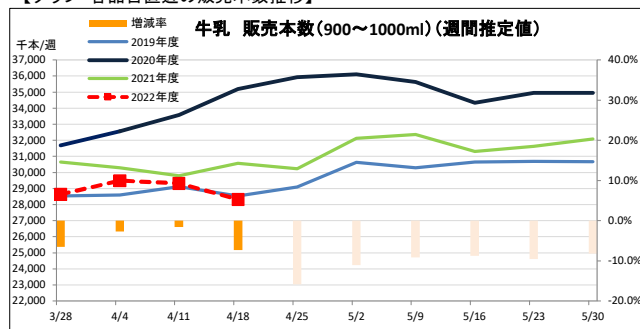
※出典 ㈱インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 直近の牛乳類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(単位: 千個、円)

品目	区分	2.28-	3.7-	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-	4.18-
トータル	販売個数	36,769	37,426	37,065	37,487	37,641	38,712	38,688	37,403
	販売個数前年比	95.0	96.2	95.9	94.8	93.2	97.1	98.5	92.8
	販売単価	182.7	182.5	182.7	182.7	182.7	182.9	182.9	182.9
牛乳	販売個数	27,874	28,430	28,242	28,619	28,639	29,492	29,325	28,330
	販売個数前年比	95.3	96.3	96.5	94.8	93.5	97.3	98.4	92.7
	販売単価	189.6	189.3	189.4	189.3	189.6	189.7	189.9	189.9
成分調整牛乳	販売個数	2,865	2,857	2,821	2,837	2,938	2,945	2,996	2,919
	販売個数前年比	96.8	96.1	96.0	95.1	94.2	98.1	99.6	95.1
	販売単価	173.5	174.0	173.2	173.9	172.4	173.8	173.4	173.4
加工乳	販売個数	751	763	755	754	764	790	796	764
	販売個数前年比	99.6	100.8	100.1	96.8	95.3	100.6	103.4	93.5
	販売単価	190.3	190.0	190.6	191.4	190.1	191.0	190.9	191.1
乳飲料	販売個数	5,278	5,376	5,248	5,277	5,300	5,485	5,571	5,391
	販売個数前年比	92.3	95.3	92.5	94.2	91.3	95.2	97.7	92.1
	販売単価	150.0	150.1	150.3	150.2	150.2	150.0	149.9	149.7

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



## 【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の動向(表②参照)

直近(4/18週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%未満、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

(2)販売個数について前週(4/11週)と比較してドリンクタイプは微増、個食タイプ、大容量タイプは減少した。前年比では全カテゴリ総じて前年比減少幅が大きくなる結果となった。

【表② 直近のヨーグルト類の販売動向】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

品目	2.28-	3.7-	3.14-	3.21-	3.28-	4.4-	4.11-	4.18-
ドリンクタイプ	👉	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇
個食タイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉
大容量タイプ	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉	👉

👇	: 前年比90%未満	👉	: 前年比105%以上110%未満
👉	: 前年比90%以上100%未満	👆	: 前年比110%以上120%未満
👈	: 前年比100%以上105%未満	👆	: 前年比120%以上

※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

## ○Jミルク特設サイト「需給安定に向けてー2022春」

Jミルクでは、今春の生乳需給に関する情報をまとめた特設ページを開設。各団体や企業の取り組み内容や需給関連のQ&A、「給食のない日の牛乳」について学校関係者向けリーフレットなどの情報を提供しています。こうした情報も参照の上、需給安定へのご理解とご協力をお願いします。

<https://www.j-milk.jp/news/supplystable2022spring.html>

※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」